発行元　社会福祉法人ラフト コーラル

〒274-0065　千葉県船橋市高根台 6-27-10

TEL/FAX　047-401-6460

編集人　土屋 滋朗

2024 年 3 月 31 日　発行

# 原点

コーラル管理者　土屋滋朗

わたしがラフトに入職したのは、今から9年前の3月10日でした。全くの未経験、風貌は現在とあまり変わらず。美術の専門学校で版画を学び、個人的な制作なども細々と続けながら職を転々としていたわたしの経歴を、理事長が面白がって（?）採用してくれたような記憶があります。あらためて思い返せば、よく採用されたな～というのが正直なところです…。

当時、船橋市宮本にあった生活介護事業所アイルの支援員として、わたしは福祉職の道を歩き始めました。新たな環境、そしてこれまでほとんど関わってきたことのなかった障害を持つ方々の中に飛び込むこと。わたしは彼らからどのように受け止められるのだろうと、不安のほうが大きかったことを憶えています。

そんなわたしが最初に感じたのは、今までのどんな場所でも味わったことのない、妙な居心地の良さでした。急に目の前に現れた他者に対して、決して無関心な訳でもなく、かといって過剰に干渉する訳でもない。「お名前は？（使っている）シャンプーは何ですか？」自分の知りたいことだけを聞いて去っていく利用者。人からどう思われようとか、そんな計算は一切なく、それはわたしにとってはとても新鮮で清々しく、そして至って自然体な、人と人との関わりかたのように感じました。自分たちの居場所に突如現れた他者を自然体で受け入れ、気付けば隣にいる。言葉でとり繕うこともなく、むしろ、そんな言葉がないからこそ、その関係性は特別なものに思えました。

戸惑いを感じたこともありました。それは、これまでに経験してきた仕事とは明らかに異なる、働くということに対して求められるものの質の違いとでも言いましょうか…。売上や効率、言い換えれば生産性と呼ばれるものを最優先に考えて働かなければいけない世界から一転、「いっしょに生きる」が基本理念の世界へ。そこでは、一般的な正解が必ずしも彼らにとっての正しい答えとは限らず、時に非効率にも思える遠まわりに付き合うことが、支援者に求められることだったりもしました。

「支援に正解はない」とはよく言われますが、これでいいのかな?という思いが常に頭の片隅にあり、自分の関わりかたひとつで、目の前にいるその人の人生を大きく変えてしまうのではないか?という恐怖にも似た感情を抱いたこともありました。

しかしながら、彼らがつくりだす時間や関係性の居心地の良さは、何にもまして新鮮で、魅力的なものでした。一般的な価値観や社会性に自分を当てはめることへの窮屈さを感じていた二十代のわたしにとっては、彼らのとる自由な振る舞いに、良い意味で自らの固定概念を覆され、同時に、どこか共感できるものがあったのだと思います。

そんなこんなで、わたし自身はその環境にすぐに馴染むことができましたが、一方で、彼らは一歩施設の外へ出るとたちまち社会の障壁にさらされます。この社会の仕組みが、どれだけ（いわゆる）健常者に都合良く作られているか、恥ずかしながらわたしは、それまで全く意識したことがありませんでした。そして、この仕事がひとつの職業として成立している意味を知ることにもなりました。

本当は、こんな仕事が存在しなくても、彼らがそのままで居続けられるよう、みんなで助け合っていける社会なら、そのほうが素晴らしいのかもしれません。しかしながら、現実にはまだまだ多くの障壁が彼らの前に立ちはだかっており、そしてわたしは今でも、飽きることなくこの仕事を続けています。

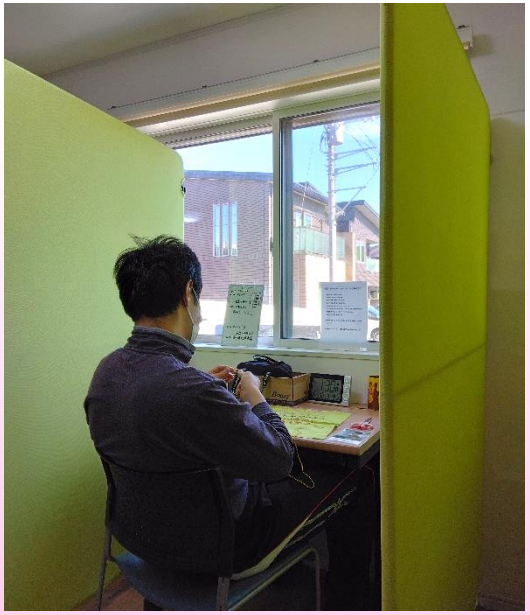
**――　コーラルの活動コンセプトである、『つくる』という行為。その中には、まだ見ぬ未来に向けた、たくさんの可能性が秘められています。そしてその可能性とは、今を生きる誰もが平等に持っている、これからの世界を変えていく力でもあります　――**

これは、令和6年度の事業方針に掲げた言葉です。自らの原点に立ち返ったとき、いま現在のわたしを形づくっているのもまた、9年前に出会った彼らの存在なのだと気付かされます。

わたしの原点ともいえるアイルは、令和6年5月末をもってその幕を閉じます。その後は名称を変え、コーラルと一体的に活動できる場として、新たなスタートを切る予定です。あの日感じた思いをそのままに、未来への一歩を踏み出していきたいと思っています。

# アートっZ

題字　Iwamura Akihiro



**アートって、むずかしい？**
**アートって、敷居が高い？**
**アートって、自己満足？**
**アートって、アートって、、、**
**アートって、なんじゃらほい！**

**そんな、日々の活動を紹介します。**

少しずつ春めいてきたある日の午後、柔らかな光が差し込む窓辺の席で、彼が取り組んでいるのはいったいなんの作業でしょうか？

**こ、これは！？**

なんと、千葉県にある市役所の名前をひとつひとつ丁寧に刺繍しているところでした！

糸巻きを１本使い切ったところで、次の色へと変わっていきます。

こちらはちょうど絵を描いているところ。
「バレエ」「女のこ」「男のこ」といった文字も見えます。カラフルな色で塗られているのは、バレエの衣装でしょうか？
普段の彼女がよく描くのは、ほとんどが文字や数字の羅列です。こんなにかわいい絵を描いている姿、実は初めて目にしました！

指先にも注目してみてください。いつの間にやらご自身で施したキュートなネイルアートを発見！爪からはみ出す感じがなんとも豪快です。自らを表現する手段としての、これもひとつの **アートのかたち。**

# 福祉ネイル体験！

さる２月の土曜日、コーラルのご近所にあるレンタルスペースmokunaさんにて、「ふれあいモクナ」というイベントが開催されました。コーラルもお誘いいただき、缶バッジワークショップをひらきました。

そのイベントに出店されていた「福祉ネイル YACHI」さん。コーラルから２名の利用者さんが、ネイル体験に参加してきました！

人生初ネイル。最初は緊張の面持ちでしたが、すぐにうちとけていき。おしゃれをして出かけたくなるような、素敵なネイルに仕上がりました！

何よりも、利用者さんの誇らしげな表情に、こちらまで感動してしまいました。美容やおしゃれを楽しむこと、もっともっと当たり前になっていくといいな～。

# 新職員紹介

Illustration by Matsumoto Akiko

**水槽じゃ　収まりきらぬ　日常を**
**いのちは泳ぐ　珊瑚のなかで**

２月からコーラルで働かせて頂いています。大丸愛実（だいまるあいみ）と申します。好きなことは短歌を作ることです。冒頭の文章はコーラルで過ごした日々を短歌にしてみたものです。

私は、福祉のお仕事はコーラルが初めてになります。

コーラルで働きたい！と思ったのは、施設見学のときに利用者様と過ごさせて頂いた時間がとっても楽しかったことと、職員皆さんの、利用者様への接し方が、自分にとっても居心地が良かったからです。僅かな見学時間でしたが、職員皆さんが利用者様に対して、対等な大人として、人としてのリスペクトを持って、支援に臨まれていることが分かりました。

また、見学中に一人の利用者様が怒った素ぶりをされたときがありました。

私は、何か気に触ることでもあったのかな、、と考えていました。しかし、後々に職員の方から「この方は役者さんのモノマネがお好きで、怒っている人の真似をされていたんです。」と教えて頂きました。

表面上は怒っている様に見えるけれど、なるほど、、利用者様なりのコミュニケーションのつもりだったのか！と驚きと、職員皆さんの観察眼と思いやりにとても感動しました。

このとき、私は表面上だけで決めつけない、人対人としての関わり合いを大切にしている職員皆さんの元で、働きたいと思いました。

そして何より、職員皆さんの「仕事が楽しい！」という言葉が福祉業界への一歩を踏み出す決め手になりました。

現在、コーラルの職員になり一ヶ月程が経ちました。支援員としてスタートを切ったばかりですが、より良い支援ができる職員を目指して、毎日を大切に過ごしていきたいと思います。